

令和7年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科
資格： 准教授
氏名： 中林 啓修

研究課題名	島嶼地域での国民保護における「ポスト避難」での施策のあり方に関する研究（その2）
研究目的及び研究概要	日本周辺の安全保障環境が厳しさを増す中で、鹿児島県の島嶼部から沖縄県にかけてのいわゆる南西諸島における、国民保護措置（住民の避難や避難者への救援など）に対する関心が高まっており、2021年以降、沖縄県や国を中心に具体的な避難方法への検討が始まっていることを踏まえ、本研究の目的は、島嶼地域での国民保護における「ポスト避難」の施策のあり方を明らかにすることで、避難を含む国民保護措置全般の課題や改善の方向性を明らかにすることである。そのため、ヒアリングを含む現地での調査を進めた。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>今年度の研究実績は以下のとおりとなる。</p> <p><現地調査> *石垣島調査 2024年9月25日および26日に実施された「令和6年度沖縄県国民保護共同訓練第2回避難に関する検討会」および同検討会の一環として実施された「住民避難登録センター」（市立運動公園に設置）と新石垣空港での実地確認（25日午後及び空港閉鎖時間後）に参加した。併せて26日午前には海上保安庁第11管区所属の巡視船を視察し、有事における住民避難への提供可能性について確認した。実地確認等全般を通じ、実際に動線を設定して避難者の移動や手続きについて確認し、以後の研究における具体的示唆を得ることができた。</p> <p>*沖縄本島調査（対馬丸記念館、平和祈念資料館、県立公文書館） 現在の国民保護を考える上で不可欠な論点である沖縄戦に関わる住民の避難や被害および復旧活動等について調査した。対馬丸記念館においては、疎開に際しての船内生活や持ち出し品の状況などについて現物の確認等を行った。また、平和祈念資料館では、住民避難の様相、特に避難先での（戦災以外の）災害被害や疾病の状況などについて当事者の証言を収集した。県立公文書館では、戦災からの復旧・復興に関する基本的な文書資料の確認と閲覧を行った。いずれの調査についても、本研究の目的である「ポスト避難」において検討すべき論点を明確にする上で不可欠の示唆を得ることができた。</p> <p><主な研究成果（専門誌、専門書等への寄稿）> *中林啓修「沖縄・南西地域における国民保護の課題」、防衛学研究、第71号、2024年9月、7-27頁。 *中林啓修「近年の国民保護措置の内容と論点について」、アカデミア、令和6年秋号（第151号）、2024年10月、26-31頁。 *中林啓修・高田洋介「CBRNE災害対策」、地域安全学会編『防災と福祉ガイドブック』、朝倉書店、2024年11月、44-45頁。</p>